



どぶろく「なっそ」

客員研究員の  
まちづくり

# 奮闘記

## 「なっそ」造ったぞー！



森田 浩二  
(宇和島市)

私が「えひめ地域政策研究センター」に勤務(出向)したのは、平成12年4月から2年間。携わった「舞たうん」は65号72号。津島町に帰って7年が過ぎた。こういった原稿を依頼されるたび思う。悪戯に時を過ごしていないか？

地元に戻って直ぐに「まちづくり推進課」に配属され、

今に至っている。できることから始めようと地域の有志で組織した「岩松町並み保存会」にも参加。全てが手探り状態だが、全国の先進地に学びながら、現在は文化庁の「伝統的建造物群保存地区」制度の活用を目指す。これまでばらばらに向いていた地域のみんなの目線を、少し同じ方向に向けることができれば、コミュニティの再生も含んだ「いい地域」になると信じ、地域の良さを見直すイベントや学習会を通じて「岩松らしさ」を探している。



岩松町風景

唐突だが、その活動の一環でどぶろくを造っている。岩松に目を向けてもらう話題づくりのひとつだ。銘柄は「なっそ」。そのために会社(企業組合)もつくった。平成19年3月に宇和島市が「どぶろく特区」の認可を受け、10月に酒造免許を取得した。いろんな許可や届出の度、多くの方にご協力いただいた。1年目は11月から造り始め、計8回、造れば売れた。県内初もあり、マスコミも取り上げてくれた。

しかし、どうやって売るか？ただ売ればいいのか？なぜ、どぶろくを造っているか？我々は今後どうしたいのか？などの疑問が山積。その都度メンバーで議論している。とかく商品売り、利益を上げることだけが目的となり、売れなくなるとメンバーも離れ、やがて活動もしなくなるといった循環に陥りがちだが、そうならぬよう「手段と目的」の確認作業は続けている。今もその結論は見出せていないが、ただ時間はかかっても議論や話し合いの中で、意思を伝えよう、話をしようとする行為こそまさに「まちづくり」だと思ふ。これを省略して現象だけを求めても長くは続かないだろう。

学ばなければならぬことは多いが、どぶろくという「ものづくり」を通して次のステージを目指す。